

令和元年度 事務事業評価シート

事務事業名		福祉のまちづくり推進					所管	福祉部 福祉課			
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	195	計画事業名	福祉のまちづくり推進			事業の開始・終了年度			
	長期総合計画体系	[基本目標] 誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまちの実現 [施策] 42 ユニバーサルデザインのまちづくりの推進					[事業開始] 平成14年度 [終了予定] - 年度				
	根拠法令等	その他	〔法令等名〕 東京都福祉のまちづくり条例								
	事業対象	直接の対象 : 区立小・中学校の児童・生徒、一般区民(高齢者、聴覚障害者等) 最終的な対象 : 一般区民									
	事業目的	年齢や障害の有無に関わらず、全ての人がお互いに助け合い、思いやりの心を持って接する「心のバリアフリー」の普及啓発により、全ての人々が互いに尊重しながら助け合い、安心して生活できるまちの実現を目的とする。									
	事業内容 [H30年度]	ユニバーサルデザインの理念に基づく「心のバリアフリー」に対する理解の促進とその実践に向けた取り組み ①心のバリアフリーの推進 区立小・中学校の児童・生徒への高齢者疑似体験及び車いす体験の実施(小学校16回、児童903名参加) ②情報バリアフリーの推進 ヒアリンググループ(磁気グループ)の貸し出し、卓上型対話支援機器の購入及び貸し出し(貸し出し11件)									
	委託の有無	一部委託	委託内容		高齢者疑似体験の実施						
補助金の有無	都										
事務事業の実績	種別	指標の名称	単位	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度				
				目標値	実績	実績	実績	目標値	達成率		
	活動指標	高齢者疑似体験実施回数	回	16	15	16	16	16	100.0%		
	成果指標	高齢者疑似体験参加者数	人	900	836	899	903	900	100.3%		
	決算額 (単位:千円)					H28年度	H29年度	H30年度			
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)					2,229	2,514	2,645		
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)					2,253	2,136	1,985		
		その他のコスト(扶助費・補助費など)					0	0	0		
		総経費					4,482	4,650	4,630		
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)					0	0	0		
その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)					1,124	1,067	987				
一般財源(区負担額)					3,358	3,583	3,643				
課題及び今後の進め方	高齢者疑似体験・車いす体験は、小・中学校の児童・生徒に分かりやすく啓発することが課題であり、学校や福祉学習ボランティアの協力を得ながら事業を進めていく。 また、ヒアリンググループや卓上型対話支援機器の活用を通じた情報バリアフリーを引き続き推進していく。										
評価の視点	評価	評価の理由									
	必要性	3	バリアフリーの取り組みにおいて、お互いに尊重し助け合う気持ちを醸成することは重要であり、区が積極的に普及啓発を行う必要がある。								
	効率性	3	車いす体験は台東区社会福祉協議会に登録しているボランティアの協力を得て実施するなど、効率的な運営に努めている。								
	手段の適切性	3	子どもたちから「心のバリアフリー」について学ぶことが重要であり、高齢者疑似体験及び車いす体験を小・中学校で実施することは有効かつ適切な手段である。								
目的達成度	4	高齢者疑似体験の実施回数、参加者数ともに目標値を達成しており、体験を通じた「心のバリアフリー」の普及啓発は着実に進んでいる。									
[総合評価] ※上記4つの視点を踏まえ、事業全体を評価。区民生活への影響を十分考慮すること。						今後の方向性					
全ての人々が互いに尊重しながら助け合い、安心して生活できるまちの実現のため、「心のバリアフリー」の普及啓発は重要である。今後とも関係者と連携して、より効果的・効率的に事業を実施していく。						維持		拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了			